

鎌田 茂雄 国際仏教学大学院大学教授

杉山 二郎 国際仏教学大学院大学教授

津田 眞一 国際仏教学大学院大学教授

鳥居 達久 国際仏教学大学院大学
博士課程

早川 道雄 国際仏教学大学院大学
博士課程

王 頌 国際仏教学大学院大学
博士課程

武田 浩学 国際仏教学大学院大学
博士課程

北野新太郎 国際仏教学大学院大学
博士課程

Marek Mejor ワルシャワ大学教授

Hubert Durt 国際仏教学大学院大学教授

原 實 国際仏教学大学院大学教授

一つ、書き遺しておきたい思い出がある。

それは昭和三六年、大学四年の時であったが、私は岸本英夫教授の「宗教神秘主義」というヨーガに関する特殊講義を受講したのである。岸本先生の講義は、前年の宗教学概論のときもそうであったが、新学期には大教室が一杯になるほどに学生が集まるのであるが、それが急激に減ってゆき、秋が深まる頃には本当に二、三人になってしまふのである。先生は当時頸部の癌がすでに大分悪化しておられて、その治療のためと、それに中央図書館長も兼任しておられて多忙のせいで休講が多く、出て来られても毎回三十分以上も遅れて来られる。講義自体もとりとめのない雑談が大部分で、ノートに取れない。だから学生が減ってしまうのである。しかし、私は最後まで出た。私が休むと学生がゼロになってしまつて先生にお気の毒だし、それに何よりも、当時の私にも、ガランとした大教室に独り坐つて先生の現れるのを静かに待つその時間が何か非常に貴いもののように感じられたからである。

そして、その様な或る午後、先生は講義の途中で教壇から降りて学生席の方へ歩み寄つて来られ、いつもの様に頸を傾けてちよつと考え込まれてから、ポソリと洩らされたのである。「私にはまだどうもよく解らない、なぜプラクリティが一つでプルシャが多数なの

かが……」と。

これは蓋し驚くべき告白と言わねばならない。ヨーガ研究の最高權威が、一学部学生に、自己の専門の事態に対する根本的な無知を告白されたのである。しかし、私はこの告白の貴重さが理解できたのは、それから二十年以上経つてからのことであつた。そして私の見るところ、この「なぜ」の真理レヴェルは学界においてまだ突破されていないのである。
(S・T)

平成十二年 三月二十五日 印刷
平成十三年 三月三十一日 発行

国際仏教学大学院大学
研究紀要（第四号）
（非売品）

発行者 原 實
発行所 〒105-8001
東京都港区虎ノ門五丁目三十二番三

国際仏教学大学院大学
電話（〇三）三四三四一六九五三

印刷所 〒107-0002

東京都千代田区内神田二丁目二
富士リプロ株式会社